

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2772301467		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム阿倍野(3階)		
所在地	大阪市阿倍野区播磨町1-20-3		
自己評価作成日	平成24年6月21日	評価結果市町村受理日	平成24年10月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア内はバリアフリーとなっており、廊下も広くとっているため車椅子の方でも移動しやすくなっている。</li> <li>・アイランドキッチンになっているため入居者様から炊事の様子が見えやすく、十分な広さもあるため調理や片付けなども参加しやすい。</li> <li>・リビングを中心に居室が周りがあるため、入居者様の見守りがしやすい。</li> <li>・浴室には機械浴が設置されているため、ADLが低下した方でも入浴が容易である。</li> <li>・屋上にはミニキッチンとトイレが完備されている。広さも十分にあるため様々な行事を行う事ができる。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年8月1日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当該事業所は法人理念の基に、ホームで目指す支援の方向性を職員間で話し合い、利用者が自宅の延長上のようにその人らしく過ごしてもらいたいとの思いを込めて「のんびりと気持ち安らぐあたしん家」と標語に掲げ、職員間で共有しながら利用者本位の支援に取り組んでいます。職員間はコミュニケーションが良くとれる環境を整え、積極的に意見や行事企画などの提案を行っており、意見や提案が反映される仕組みができています。また浴室には機械浴の設置があり、重度になられた利用者も安全に入浴してもらうことができています。また終末期支援にも取り組み、家族や医師、関係者とその時々状況に応じて方向性を話し合い、職員間で共通認識の下、利用者や家族の思いを大切にしながら看取りまで支援しているホームです。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア玄関に掲示している。また職員で考えた標語の「のんびりと気持ち安らぐあたしん家」をフロアの見える位置に貼り、それをモットーに日々の介護を行っている。	法人理念を基にホームの目指す方向性を職員間で話し合い、標語として掲げています。利用者がその方らしくのんびりと自宅の延長上のように過ごしてもらえるよう支援しています。職員は常に利用者の立場に立つことを心がけ、カンファレンスや会議の中でケアを見直す機会を持ちながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、挨拶を交わす程度である。年に数回近隣の保育園・幼稚園の訪問がある。	散歩や買い物で出会った方と挨拶を交したり、公園で遊んでいる子ども達に声を掛けています。保育園児や幼稚園児がホームを訪れて、遊戯を披露してもらい交流しています。地域の夏祭りに参加を予定すると共に、ホームの秋祭りは近隣への声掛けやチラシ配布、ポスターを貼るなど、地域の方の参加が得られるよう働きかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けては活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・現況の報告をしている。意見があればサービスの向上に繋げられるようにしている。	会議は2ヶ月毎に家族や地域ネットワーク委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。ホームからの報告などを行い、花見スポットや認知症講座などの情報を得たり、防災や看取り支援などについて話し合い、有意義な会議となっています。家族が参加し易いよう行事に合わせた開催を検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者ととの連携は取れていない。	市の担当者との連携は法人を通じて行っており、運営推進会議の議事録提出や問い合わせ、困難事例の相談などは、事務局の専従職員が行い、関係を構築しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに身体拘束についての資料をはさんでおり、常時見ることができるようになっていた。身体拘束にあたる介護は行っていない。	定期的にマニュアルを用いて勉強会を行い、不参加の職員は資料を確認してもらい周知し、拘束しないケアの徹底を図っています。管理者は言葉の拘束についても常に職員に話をしています。エレベーターはロックしていますが、外出希望があればできる限り一緒に出掛け、気分転換をしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に学ぶ機会はないが、虐待などはない。		

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関係は事務で行っており、十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロア玄関に意見箱を設置している。また、家族様に向けたアンケートも実施している。面会に来られた際などにもコミュニケーションをとり、気軽に何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。	利用者とはコミュニケーションを取る中で、意見や要望が無いかを聞いています。家族からの要望は年2回開催する家族会や来訪時、アンケート調査の実施などで聞く機会を持っています。個別ケアに関する意見は介護計画に反映したり、食事に対しての意見では行事として様々なメニューを取り入れるなど改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を行っている。	毎月の全体会議で職員に意見を募ったり、年2回個別面談の実施や職員に気になる様子があれば、随時面談し話を聞いています。職員は企画書を用いて行事の提案を行っており、バーベキューの実施などに繋げています。また意見によっては法人に相談し、反映できるよう話し合われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課表を記入してもらい、各自が目標を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会を月に1回行っている。法人外の研修にはなかなか参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿倍野区内のグループホームの連絡会があり、定期的に参加している。		

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様、十分にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の相談は事務が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者としての意識を常に持ち、コミュニケーションを密にとり、日々の介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に近況を報告したり、本人様と一緒に話をしたりして、何でも話し合える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方には手紙やはがき・電話等で交流していただいたり、また面会に来られたりする事もある。	昔からの友人や近所に住んでいた方、以前担当のケアマネジャーなどが会いに来られています。入居前に通っていたデイサービスに家族と行ったり、墓参りや行きつけの美容室など、家族の協力も得ながら関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションが取りづらい場合は、職員が間に入る等の配慮をしている。		

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡が途絶える事がほとんどだが、退居後も来訪して下さる家族様もおられる。関係が断ち切れないよう声掛けは行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから希望・要望等を聞き出せるよう努めており、困難な場合は本人本位であるように検討している。	入居時にこれまでの生活歴や趣味、習慣や暮らし方の希望などを聞き、思いが把握できるよう努めています。職員は日々の関りの中で気付いた事などを記録に残し、計画の見直し前には全職員が利用者毎の気付きシートに個々に情報を記入し、それを基にカンファレンスで話し合い、利用者の思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の聞き取りや日常の会話・家族様からの情報等から把握に努め、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況・精神状態などを日々観察し、様々な状況を把握できるよう努めている。またそれをケース記録に記入し、職員同士共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、家族様の要望や本人様の言動・気づきシートを基にケアプランを作成している。	利用者の意向や希望を取り入れた介護計画を作成しています。計画に沿った日々の記録や気付きシートなどを参考にカンファレンスを行い、3ヶ月毎に介護計画を見直しています。見直しに際しては利用者の身体状況や生活に関する事項などの状況表を作成して職員間で共有し見直しに活かしています。家族には事前に意向を確認し、また受診や往診時などの情報も必要時反映させています。	個々のサービスは介護計画に基づいて提供されており、日々の記録の中でプランに沿った記録がされていますが、定期的なプラン毎のモニタリングの実施状況が明確ではないため、プランに沿った確認できるよう工夫されてはいかでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノート・気づきシートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。		

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできていないが、歌のボランティアにきていただいたり、阿倍野区のチャリティーコンサートを聴きに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医に受診に行かれたり訪問診療を受けられたりなど、個々の希望・疾病に合ったかかりつけ医を作り都度連絡をとれるような体制作りをしている。	これまでのかかりつけ医を継続でき希望に合わせて一人ひとり対応しています。かかりつけ医によっては往診にも対応してもらっています。家族対応の受診の際は必要な情報を共有し連携を図っています。24時間連絡可能な提携医は2週間に1度の往診があり、毎週訪問看護による健康管理も行われています。また希望により歯科や訪問マッサージなどを受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師に健康管理をしていただいております。気軽に日常の相談はできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院された場合は、担当者から都度連絡が来るような体制になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に3件看取りあり。かかりつけ医と家族様・事業所とで繰り返し話し合いを行い、終末期を過ごして頂いた。	看取りの指針に基づいて説明を行っています。これまでに看取りの経験があり、その時々状況に応じて家族や医師、訪問看護師などの関係者で話し合い、フロア会議でケアの方向性を話し合いながら支援しています。提携医や管理者などは24時間連絡が可能な体制をとり、管理者が出勤を多くするなどの体制を整え、職員の不安にも配慮しながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、勉強会でも取り上げられており、マニュアル化して常時見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていないが、勉強会でも取り上げ、日頃から職員同士でも話している。	年に1度、消防署の指導の下、夜間想定で避難訓練を行い、ホーム独自でも年に1度、昼間想定で訓練を実施しています。訓練については運営推進会議で議題にしたり、地域ネットワーク委員を通じて地域の方の参加や協力が得られるよう働きかけを行っています。	

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本としているが、状況に応じて対応している。言葉使いが乱れている時には都度注意している。また、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	日常的には敬語を用いて会話することを心がけています。職員が上位に立ったり、威圧感を与えるような言葉かけになっていないかなどに配慮しながら支援しています。入浴やトイレの際の声掛けは周りに配慮すると共に、不適切な言動があればその場で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方については聞き出せるよう心掛けている。困難な方についてはこちらで思いを汲み取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが、入浴日や買い物は予め決まった日になっている。それ以外は入居者様のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容院に行ったり、訪問理美容に来てもらいカットして頂いたりしている。また、女性の方には行事の際に化粧をして頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には片付け等手伝っていただいている。職員も一緒に食事をして、楽しく食事ができる環境作りに努めている。	食材は業者から届けられ、調理専門の職員が調理を行い、利用者と一緒に皮むきや盛り付け、洗物や食器拭きなど、出来る事を共に行っています。時には寿司の実演や屋上でのバーベキュー、お好み焼きなどを楽しんでもらったり、家族と外食に行かれる方もあります。職員も共に食卓に着き、談笑しながら食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ食や刻み食・量の調整など一人ひとりに合わせた食事を提供し、できるだけ水分も摂って頂けるような声掛けもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の能力に合わせ、一部介助や見守り・声掛けを行っている。		

グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄していただけるよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った時間にトイレ誘導をしている。	支援が必要な方は個々の排泄記録からリズムを把握し、重度の方も座位が保持できる方はトイレでの排泄を支援しています。夜間は睡眠にも配慮しながら支援し、その方に合わせた紙パンツやパットの選択で失敗も減り、布の下着に変更になるなど、取り組みの成果がみられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、主治医指導のもと下剤の調整を行っている。また日頃から水分を多く摂っていただいたり、腹部マッサージを行ったりするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが4階とは曜日がずれているため他の日に入って頂く事も可能。順番やタイミングは本人の希望やその時の状況に合わせている。	入浴は9時半頃から4時頃までの間で週3回を目途に支援し、利用者の状態に応じて機械浴の設備もあり、安心して入ってもらえるよう支援しています。入浴を拒む方も職員の交代や声掛けの工夫、翌日に変更するなど柔軟に対応しながら、週2回以上は入ってもらえるよう支援しています。また季節のゆず湯を楽しんでもらう事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態・状況により、居室やリビングのソファで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全てを理解しているとは言えないが、薬情を確認し、理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやレクリエーションへの参加・外出などで気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外出することはできていない。家族様の協力により外出される方もいる。	気候が良ければできるだけ散歩に出かけ、おやつや日用品などの買い物へも利用者と一緒に出かけしています。家族を誘って神戸のフラワーパークなどへ出かけしています。外出が困難な場合は見晴らしのいい屋上に出て、気分転換をしてもらうよう努めています。	利用者の重度化などで日常的な外出が難しい状況となっていますが、重度の利用者も一緒に外にでかけられる機会の検討して、外出や気分転換を図れる機会を増やされることを期待します。



グループホーム阿倍野(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっている。希望があれば個人で少額持って頂くことも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はしておらず、希望に応じて携帯電話を持っていたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような飾り付けをしている。また、心地よく過ごしていただけるように室温などにも気をつけている。	ゆったりと広いリビングは利用者と作成した季節感ある貼り絵を飾り、利用者の季節感に配慮したり、食事コーナーとソファコーナーが設けられ、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しています。また居室前の作り付けベンチは気の合う利用者同士で会話される場所などに利用されています。床のクッションフロアは弾力があり利用者の転倒によるけがの防止など、利用者が安全に居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前にはベンチがあり、リビングにはテーブル席の他にソファもある。テレビを観たり職員や入居者様同士でお話されたりと思いい思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や使い慣れた物・写真などを置いていただき、本人様が居心地良く過ごせるようにしている。	各居室にはトイレと洗面所が完備されており、畳とフローリングの居室があります。利用者は使い慣れたタンスやテレビ、ラジオ、大切な家族が描いた絵や写真、位牌などを持ち込まれています。ベットや床に布団など利用者の好みや生活習慣に合わせて選んでもらっています。また、家族が持って来られた植物を自室で育てる方など、利用者が思い思いに安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下や必要な箇所には手すりをつけている。床はクッションフロアになっている。		